令和８年度 音更町立鈴蘭小学校 学校評価（前期）

児童・保護者・教職員の評価から、学校生活の楽しさや思いやりの意識が高く、中・高学年では表現・対話・学級づくりへの参加に前進が見られる。一方、教科への興味、低学年の算数の理解、児童の安心感を捉える教職員との認識の違いには継続的な対応が必要である。

１．良好な傾向

（１）友達と楽しく過ごす学校生活（Q1）

友達と楽しく勉強・生活しているという肯定率は、低学年 93.2%、中・高学年 92.7%、保護者 93.3%、教職員 95.0%である。

（２）命や思いやりを大切にする意識（Q13）

命を大切にし、思いやりをもって過ごすという児童の肯定率は、低学年 97.4%、中・高学年 98.2%と高い。

（３）表現・対話・参画の前進（Q5, Q22, Q24）

中・高学年では、考えを話すこと、異なる意見を考えること、学級をよくするための意見交換が前回を上回っている。

２．改善が必要な傾向

（１）学ぶ喜びと理解の充実（Q3, Q6, Q7）

中・高学年の国語が好きという評価は 67.1%、算数は 66.2%である。低学年の算数の理解は前回より低く、つまずきに応じた支援が必要である。

（２）児童の安心感の把握（Q19, Q20, Q21）

教職員から見た児童の夢・希望は 60.0%、幸福感と友達関係への満足は各 70.0%である。児童本人の回答と日常の様子を合わせて理解する必要がある。

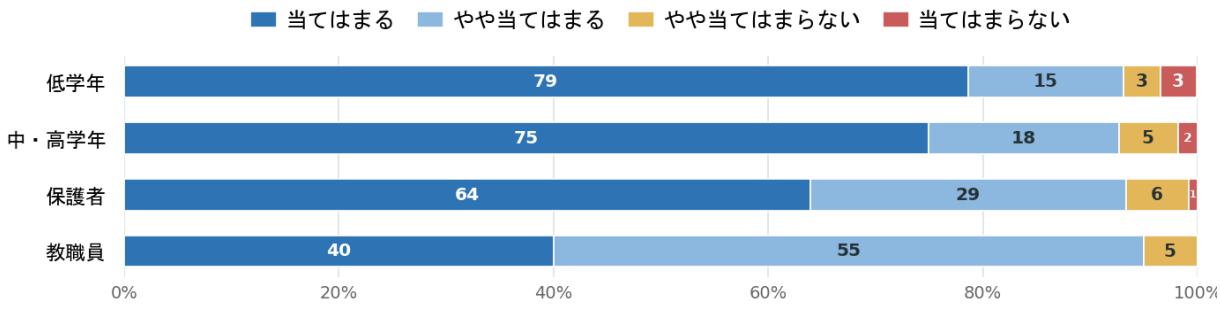
（３）保護者から見た児童の学習への取組み方や授業への関わり（Q2, Q5, Q8, Q24）

保護者による学習過程や学級での参加に関する評価は相対的に低い。取組の実態を確かめるとともに、学び方や成長を具体的に伝える必要がある。

３．対策

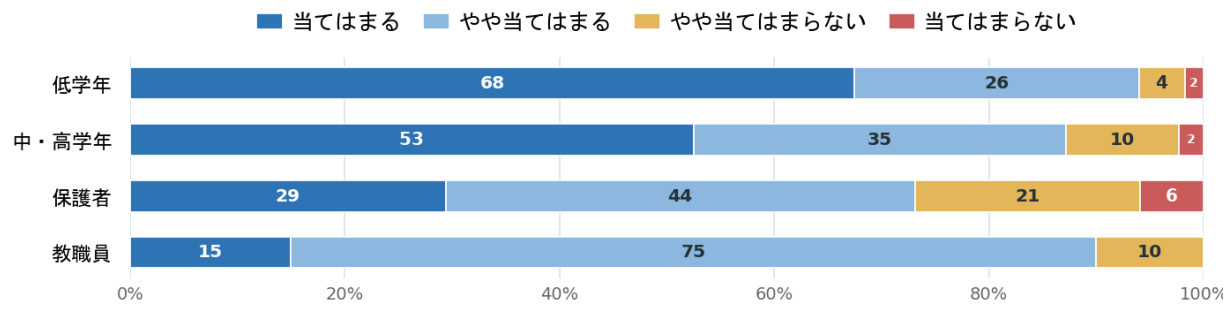
授業の見通しと振り返りを充実させ、「分かった」「できた」を積み重ねる。考える・書く・話す機会を保障し、対話や学級活動を継続する。日々の健康観察や相談を通して児童理解を共有し、安心・安全を支える。運動に親しむ機会を増やし、家庭には努力や学習過程も伝える。

Q1　学校では、楽しく友達と勉強したり、生活したりしている



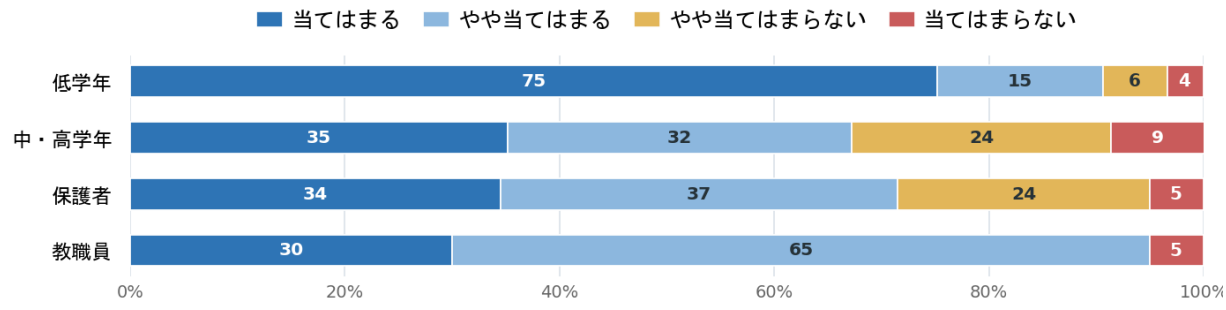
• コメント：三者とも肯定的な評価が高く、認識は概ね一致している。

Q2　授業では、解き方や解答などが分からないときに、あきらめずに、自分からいろいろな方法を考えて取り組んでいる



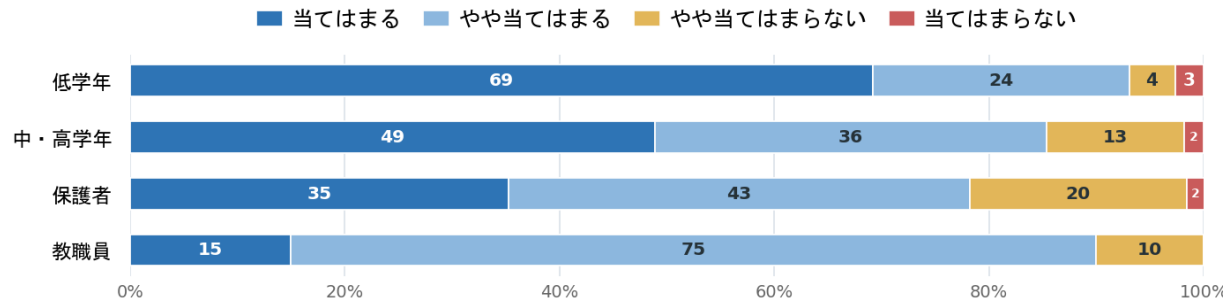
- コメント：保護者の評価が児童・教職員より低く、取組の見える化が必要である。

Q3　国語の勉強は好きだ



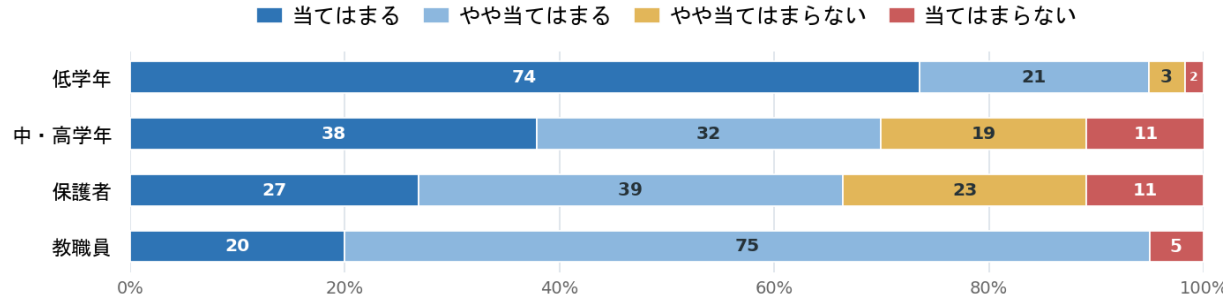
- コメント：中・高学年の評価が低く、教職員の見立てとの開きが大きい。

Q4　国語の授業の内容はよく分かる



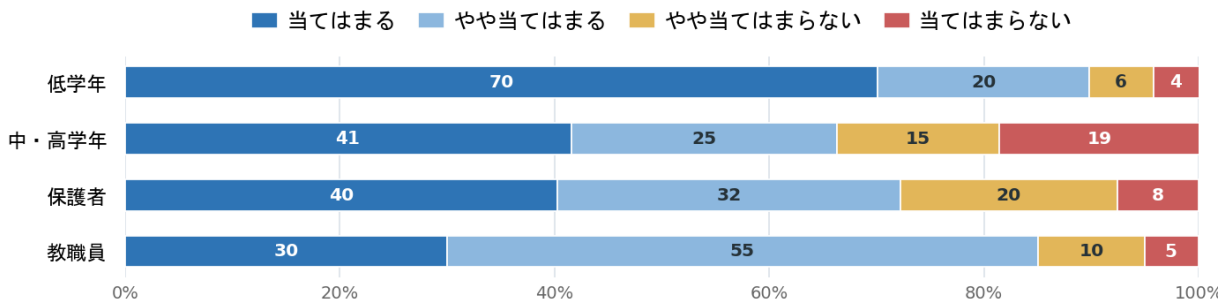
- コメント：保護者の評価が相対的に低く、理解の状況を丁寧に共有したい。

Q5　国語の授業では、自分の考えを話したり、質問したりしている



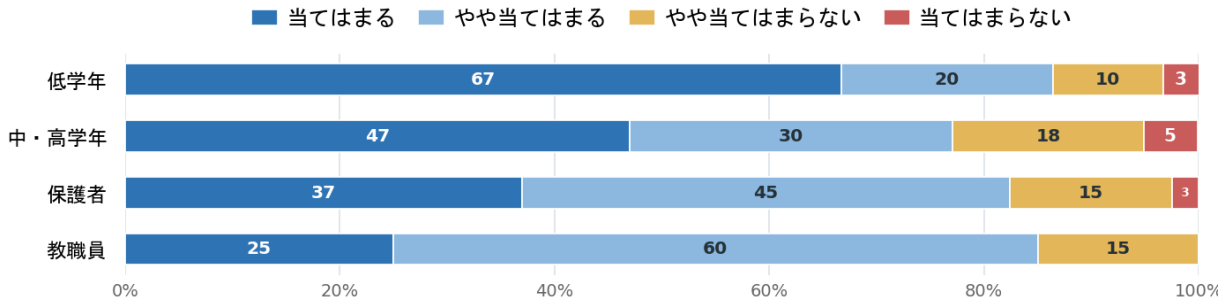
- コメント：低学年・教職員に比べ、中・高学年と保護者の評価が低い。

Q6　算数の勉強は好きだ



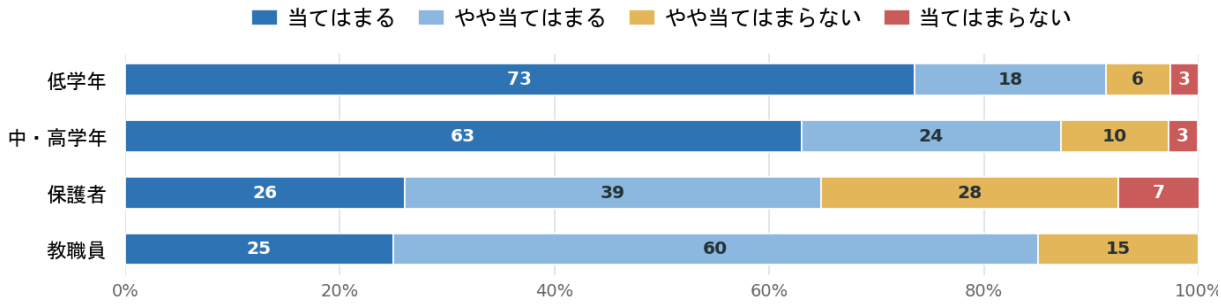
• コメント：中・高学年の評価が低く、算数への興味を高める工夫が必要である。

Q7　算数の授業の内容はよく分かる



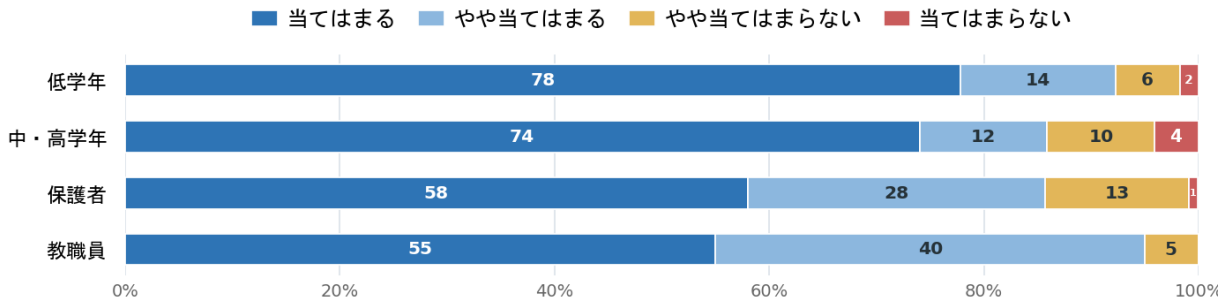
• コメント：三者の差は比較的小さく、概ね共通した認識となっている。

Q8　算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書くなどしている



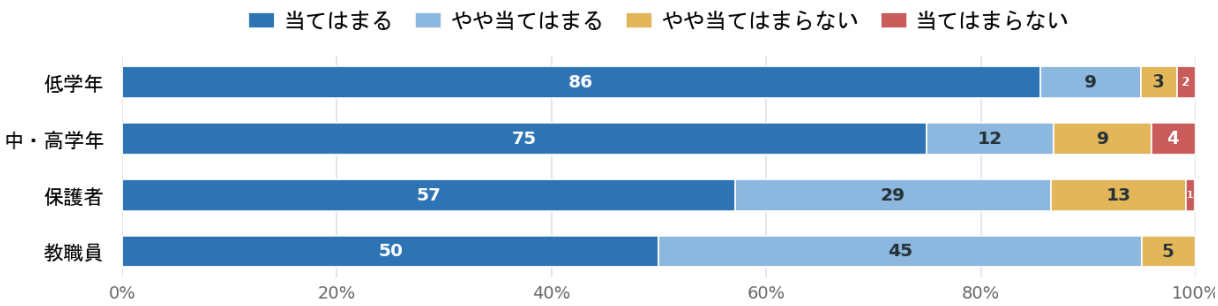
• コメント：保護者の評価が特に低く、ノート指導の実態を伝える必要がある。

Q9　運動やスポーツをすることが好き



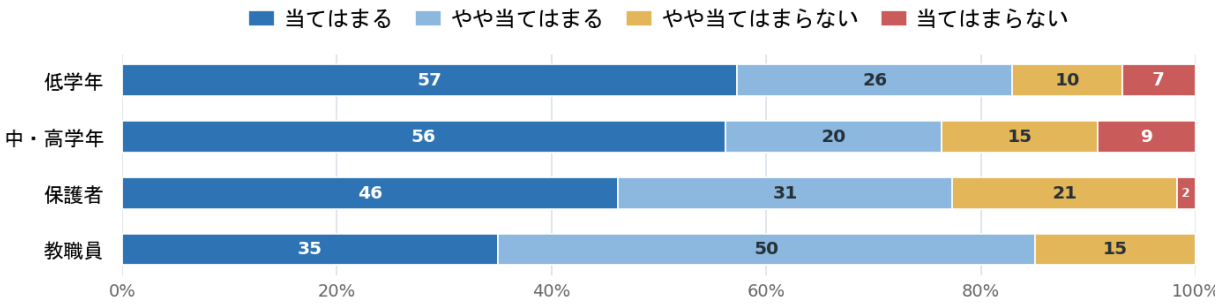
• コメント：中・高学年の評価がやや低く、日常的に運動へ親しむ機会が必要である。

Q10　体育の授業は楽しい



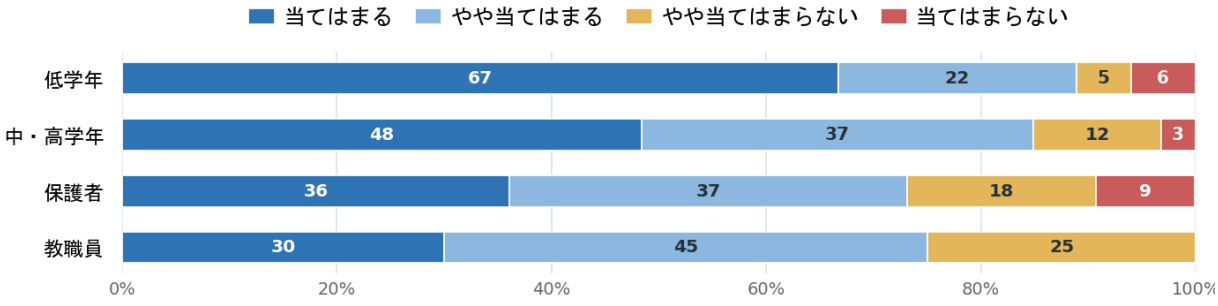
- コメント：三者とも肯定的な評価が高く、体育の楽しさが共有されている。

Q11　体育の授業や休み時間などで積極的に運動している



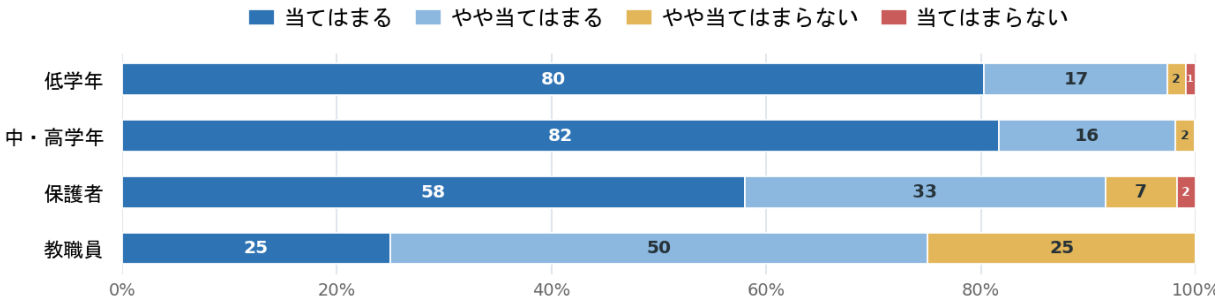
- コメント：中・高学年と保護者の評価がやや低く、運動習慣の定着が課題である。

Q12　宿題や家庭学習を積極的・計画的に取り組んでいる



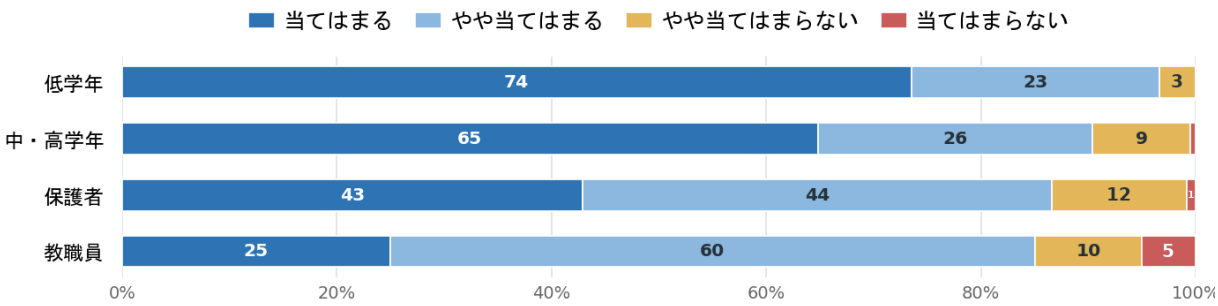
- コメント：児童より保護者・教職員の評価が低く、家庭学習の実態把握が必要である。

Q13　自分や友達の命を大切に考え、思いやりをもって過ごしている



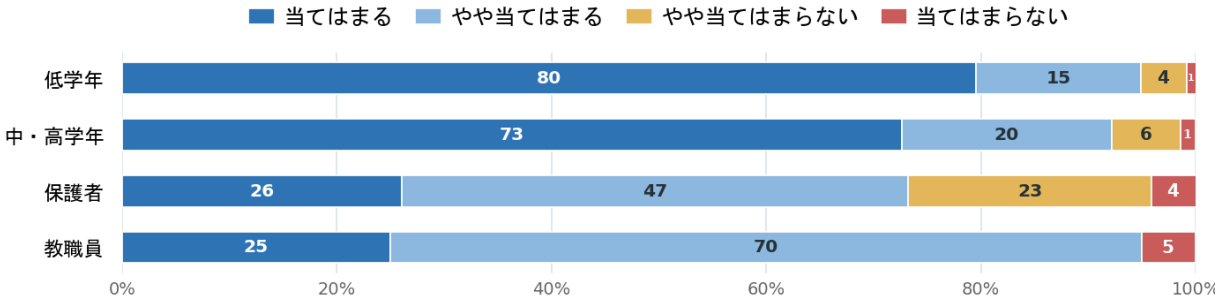
- コメント：児童・保護者は高い一方、教職員は慎重に評価している。

Q14　丁寧な挨拶や返事を心がけ、時間や決まりを守って生活している



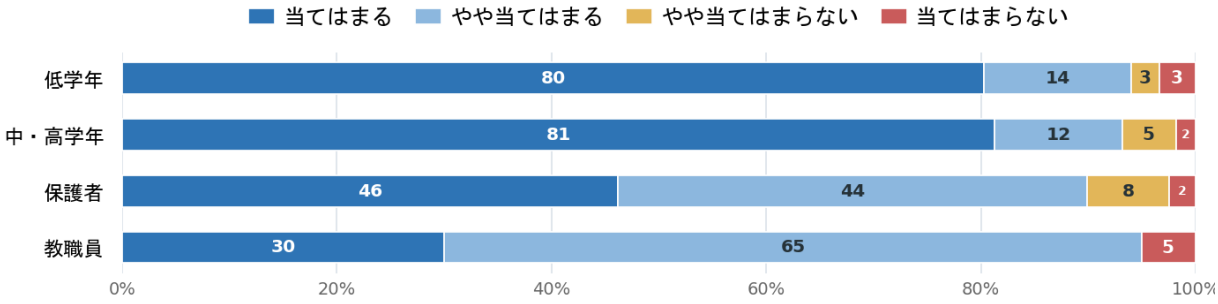
• コメント：低学年が最も高く、中・高学年、保護者、教職員の順に低下している。

Q15　先生は、困ったことがあったとき、話を聞いて助けてくれる



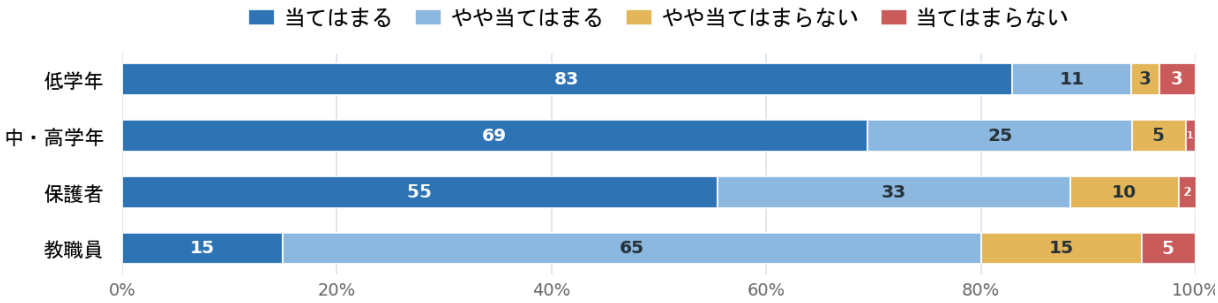
• コメント：児童・教職員に比べ保護者の評価が低く、相談対応の共有が必要である。

Q16　家族は、困ったことがあったとき、話を聞いて助けてくれる



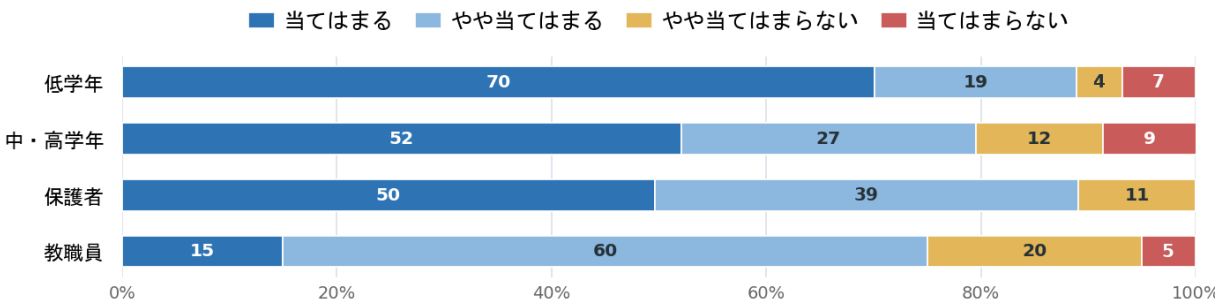
• コメント：三者とも肯定的な評価が高く、家庭の支えが共通して認識されている。

Q17　先生は、自分の良さや頑張りを認めてくれる



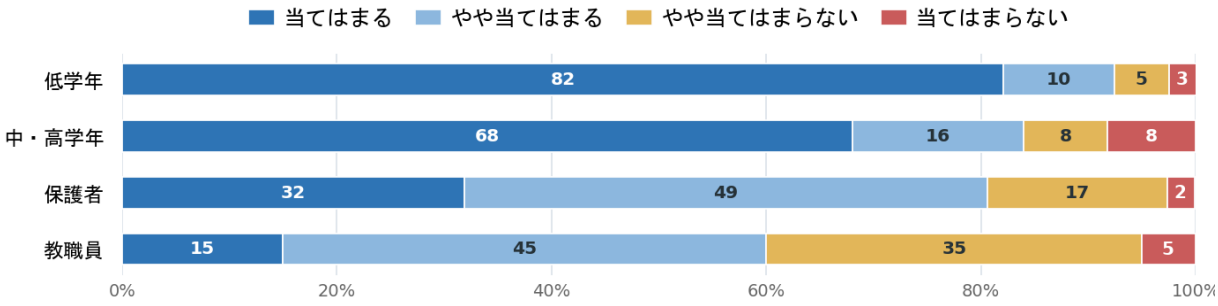
• コメント：児童・保護者に比べ教職員の評価が低く、承認の伝わり方を確かめたい。

Q18　自分には良いところがあると思う



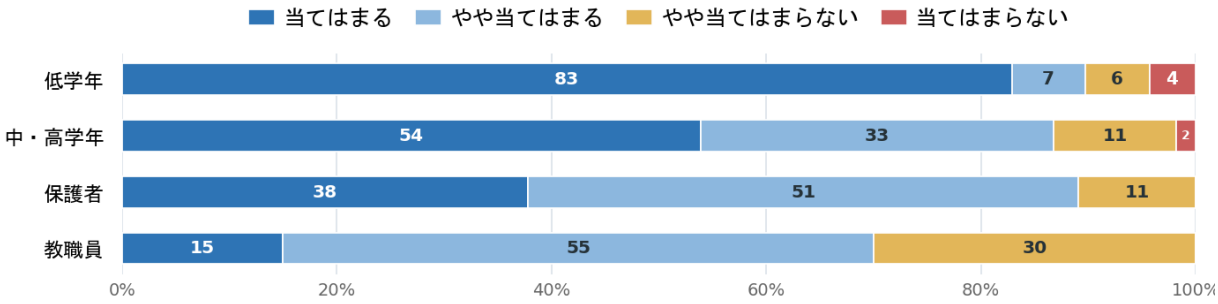
• コメント：低学年・保護者に比べ、中・高学年と教職員の評価が低い。

Q19　将来の夢や希望を持っている



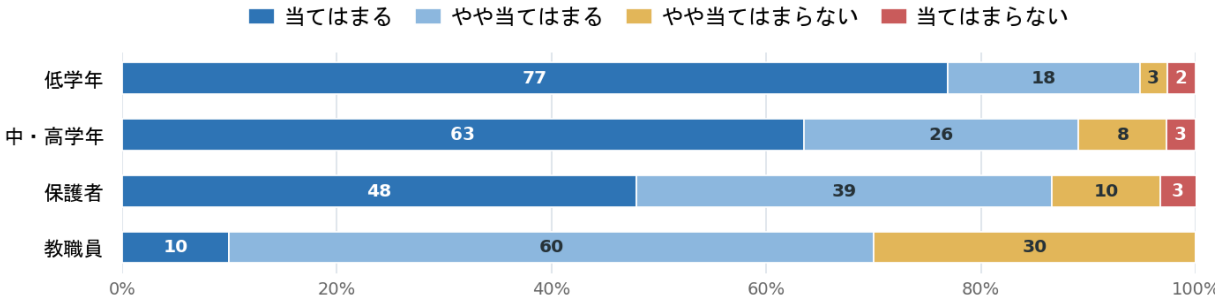
• コメント：児童本人に比べ教職員の評価が大幅に低く、丁寧な児童理解が必要である。

Q20　普段の生活で幸せな気持ちになる



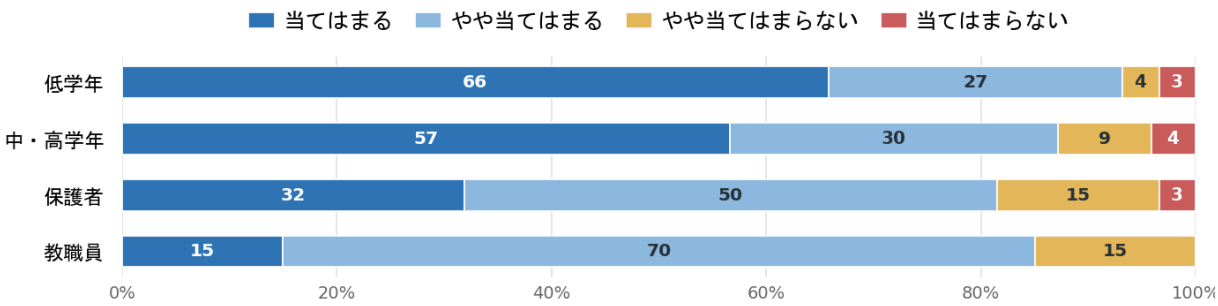
• コメント：児童・保護者に比べ教職員の評価が低く、日常の様子を共有したい。

Q21　友達関係に満足している



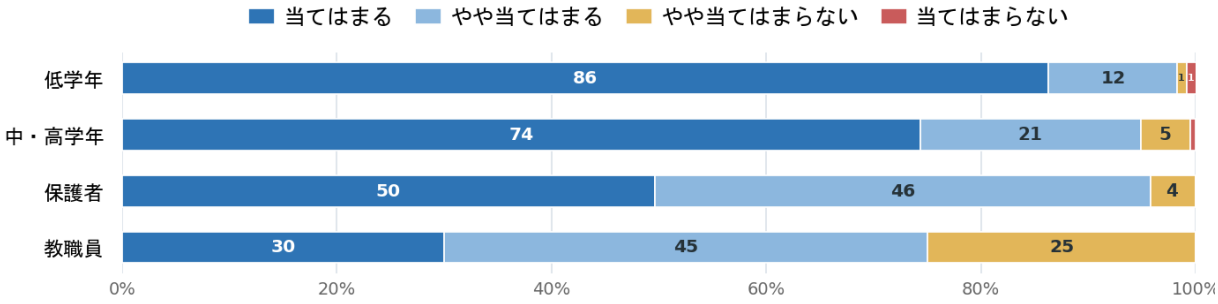
• コメント：児童本人に比べ教職員の評価が大幅に低く、友達関係の把握が必要である。

Q22　自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う



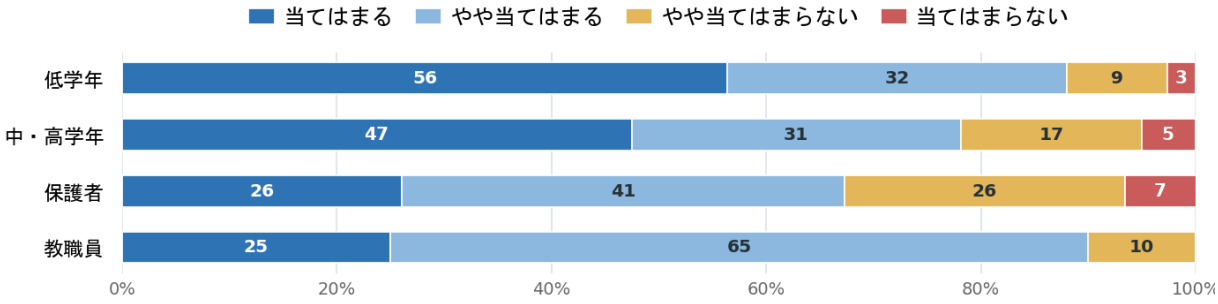
• コメント：保護者の評価がやや低く、対話的な学びの様子を伝える必要がある。

Q23　人が困っているときには助けてあげる



• コメント：児童・保護者は高い一方、教職員は慎重に評価している。

Q24　クラスをよくするために意見を出しあったり、解決方法を考えたりすることがある



• コメント：保護者の評価が最も低く、教職員の評価との差が大きい。

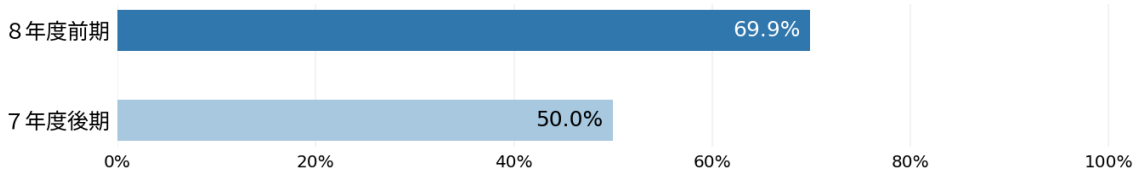
児童による回答の前回比較

１．包括的な傾向

中・高学年では、表現・対話・学級づくりへの参加や家庭学習に前進が見られる。一方、低学年の算数の理解、教科への好意、日常的な運動には課題が残る。低学年と中・高学年を分けて、主な変化を示す。

２．改善傾向にある項目

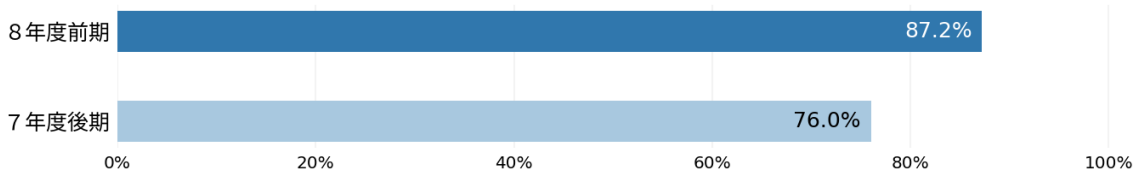
国語で考えを話す・質問する（中・高学年）



傾向：前回を 19.9 ポイント上回る。表現する機会への参加が進んでいる。

対策：考えをもつ時間を確保し、書く、ペアで話す、全体で交流する活動を組み合わせる。

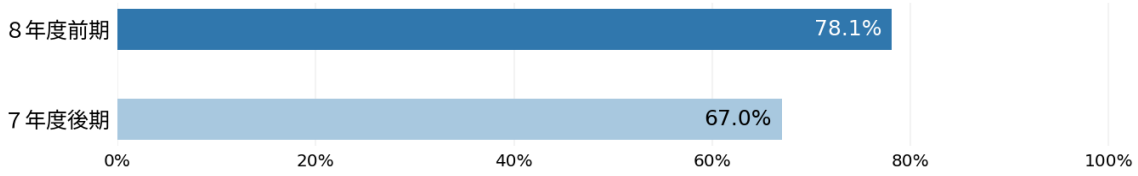
異なる意見について考える（中・高学年）



傾向：前回を 11.2 ポイント上回る。他者の考えに触れる活動を継続したい。

対策：意見の違いを比べ、理由を尋ね合う活動により、安心して意見を出せる雰囲気をつくる。

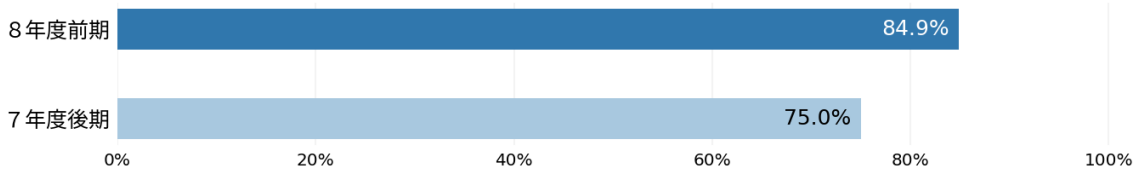
学級をよくするための参画（中・高学年）



傾向：前回を 11.1 ポイント上回る。学級づくりへの参加に前進が見られる。

対策：身近な課題を話し合い、児童が解決方法を選び、実践を振り返る機会を設ける。

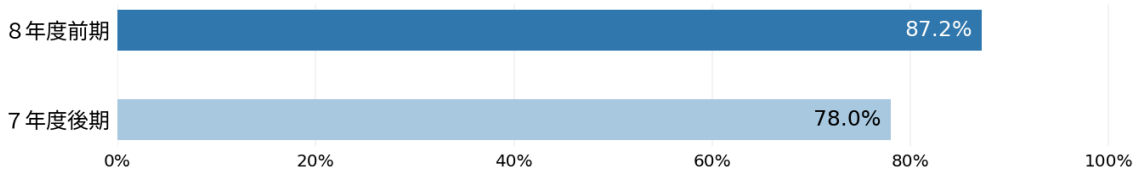
家庭学習への取組（中・高学年）



傾向：前回を 9.9 ポイント上回る。家庭学習への取組をさらに定着させたい。

対策：取り組む時間や順序を考え、無理のない計画を立てる支援を続ける。

自分から方法を考える（中・高学年）

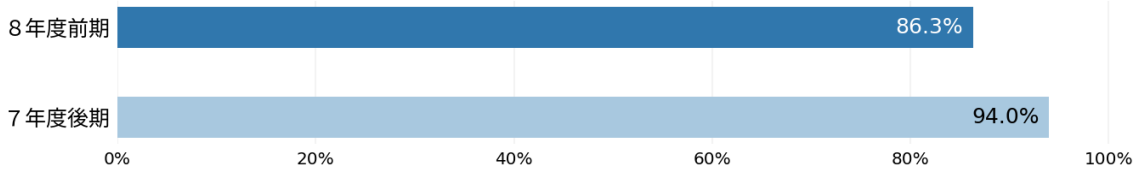


傾向：前回を 9.2 ポイント上回る。自分から考えて取り組む姿勢が見られる。

対策：複数の考え方を認め、困ったときに図や具体物などを使って考え直せるようにする。

３．課題が残る項目

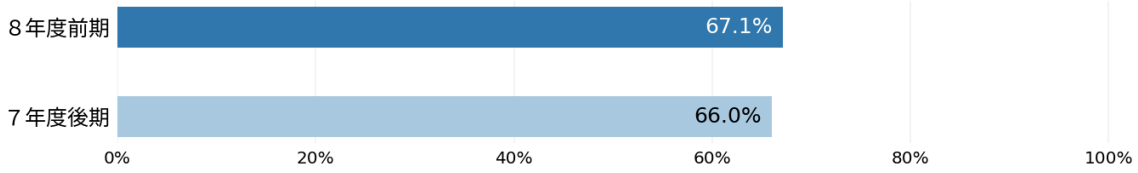
算数の授業内容が分かる（低学年）



傾向：肯定率は高いが、前回を 7.7 ポイント下回る。単元ごとのつまずきの把握が必要である。

対策：具体物・図・操作・言葉を組み合わせ、理解の状況を確かめながら指導する。

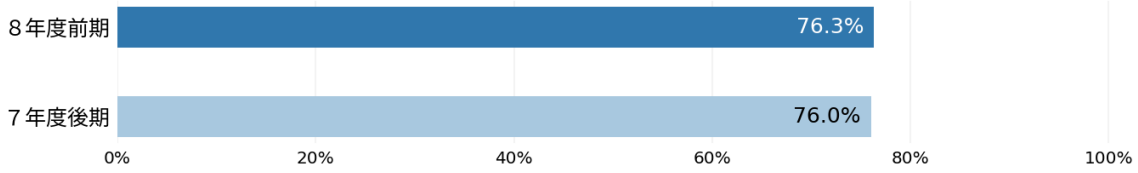
国語の勉強が好き（中・高学年）



傾向：前回との差は 1.1 ポイントで、他項目に比べ肯定率が低い。学ぶ喜びの充実が課題である。

対策：教材との出会いや表現活動を工夫し、できるようになったことを具体的に認める。

積極的に運動している（中・高学年）



傾向：前回との差は 0.3 ポイントで、横ばいである。運動への好意を日常的な参加につなげる。

対策：技能差にかかわらず選べる運動や短時間の活動を取り入れ、参加しやすい機会を増やす。

自由記述のまとめ

1　学校生活・児童の成長

主なご意見（要旨）

- 学校や担任への感謝、子どもが楽しく登校している。
- 学習や行事、友人との関わりを通した成長を実感している。
- 一人一人の個性やよさを認め、さらに伸ばしてほしい。

学校からの回答

温かいお言葉をいただき、ありがとうございます。子どもたちが安心して学校生活を送り、自分のよさや成長を実感できるよう、日常の姿を丁寧に見取り、具体的な言葉で認める指導を大切にします。一人一人の興味・関心や得意なことを生かせる学習や活動の工夫を進めます。

2　授業中の学習環境

主なご意見（要旨）

- 授業中の私語や落ち着きに課題があるため、集中して学べる環境を整えてほしい。
- 学級の様子や指導の状況を、家庭にも適切に知らせてほしい。

学校からの回答

全ての子どもが安心して学習に集中できることを基本に、授業の約束や話の聞き方を学級全体で確認します。必要に応じて複数の教職員で状況を把握し、個別の支援と学級全体への指導を組み合わせます。学級の様子については、個人情報に配慮しながら、学級通信や懇談等を通して家庭と共有していきます。

3　友人関係・いじめ防止

主なご意見（要旨）

- 無視や仲間外れなど、小さな兆候の段階から丁寧に対応してほしい。
- いじめを生まないための学習や、相談しやすい環境を充実してほしい。
- 問題が起きた際は、事実確認と家庭への連絡を速やかに行ってほしい。

学校からの回答

無視や仲間外れなど、本人がつらいと感じる行為を軽く扱わず、いじめにつながる兆候として把握します。日常の観察、アンケート、教育相談等を通して早期発見に努め、情報を生徒指導委員会で対応について協議し、教職員間で共有して組織的に対応します。事案が生じた場合は、安全の確保を優先し、関係する子どもから話を聞いたうえで、家庭への連絡と相互の情報共有と継続的な見守りを行います。

4　安全管理・事故発生時の対応

主なご意見（要旨）

- 危険な物の扱いや児童同士の行為によるけがを防いでほしい。
- けが等が起きた際は、迅速な連絡・報告と再発防止に努めてほしい。
- 水泳学習の施設、補助具、見守り体制などの安全対策を徹底してほしい。

学校からの回答

授業や休み時間を含め、危険につながる行為や物の扱いについて指導を徹底し、教職員による見守りと情報共有を強化します。けがや事故が発生した際は、子どもの安全確認と処置を最優先に、事実を確認して家庭へ連絡し、原因を検証して再発防止につなげます。また、水泳学習については、施設担当者及び教育委員会の協力を得て深さの調整を行うとともに、監視員を増員して対応しております。

5　教職員の関わり・相談体制

主なご意見（要旨）

- 子どもの話を丁寧に聞き、相談に応じてくれることへの感謝している。
- 子どもが萎縮しない、穏やかで尊重のある言葉かけをしてほしい。

学校からの回答

子どもの話を受け止める関わりを今後も大切にします。指導に当たっては、子どもの人格を尊重し、意図が正しく伝わる言葉かけを心がけます。子どもや保護者から相談があった場合は、担任だけで抱え込まず、管理職や関係職員、関係機関と共有して対応します。ご心配なことがある場合は、早めに学校へご相談ください。

6　家庭との情報共有・面談

主なご意見（要旨）

- 学校での様子や成長を知るため、希望者への面談機会を設けてほしい。
- 電話がつながる時間帯や連絡方法を分かりやすくしてほしい。

学校からの回答

学校での子どもの様子や成長を家庭と共有することは重要であると考えています。面談の実施時期や方法については、教育活動とのバランスを踏まえ、希望に応じた相談機会の確保も含めて検討します。また、電話対応の時間帯は、7:50 から 17:00 と設定しています。学校からの情報は、適宜マチコミでの配信、学校だより、学級通信等でも行なっておりますが、ご不明な点がございましたら学校までお問い合わせください。

7　宿題・家庭学習

主なご意見（要旨）

- 長期休業中を含め、宿題の内容や量を充実してほしい。
- 自主学習を楽しみ、学習への自信につながっている。

学校からの回答

宿題や家庭学習は、学習内容の定着と自ら学ぶ習慣づくりを目的にしています。学年の発達段階や家庭での負担、学習効果を踏まえ、量だけでなく内容や取り組み方も含めて調整しています。自主学習については、子どもの意欲や工夫を認め、継続しやすい助言を行います。家庭にも取組のねらいが伝わるよう説明を工夫します。

8　持ち物の負担

主なご意見（要旨）

- 端末や水筒、教科書等により通学時の荷物が重いため、持ち帰り方を見直してほしい。

学校からの回答

令和６年度から、子どもの身体的な負担を減らす観点から、家庭学習で使用する物、学校で保管できる物、持ち帰る必要がある物を整理しています。学校では、子ども自らが学習予定、安全面も踏まえ、持ち物の負担が過度にならないよう調整できる力を身に付けるよう指導しております。

今後も、いただいたご意見を教育活動の改善に生かし、子どもたちが安心して学び、成長できる学校づくりに努めます。ご理解とご協力をお願いいたします。